

2020年6月12日

関係各位

マネックス証券株式会社

「MONEX 個人投資家サーベイ 2020年6月調査」

～アフターコロナを踏まえた投資スタンスについて～

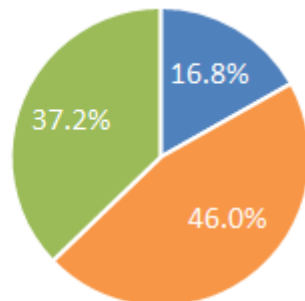
マネックス証券株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：清明祐子、以下「マネックス証券」）は、2020年5月27日から6月1日までインターネットを通じて、マネックス証券に口座をお持ちのお客様向けにアンケート調査（回答数 1,194 件）を実施しました。

今回、定例調査である個人投資家の相場観の調査に加え、新型コロナウイルス影響下の投資行動について特別調査を行いました。

<調査結果概要>

【特別調査】アフターコロナを踏まえた投資スタンスについて

1-1. コロナウイルスの感染拡大による株価下落を受けてとった投資行動

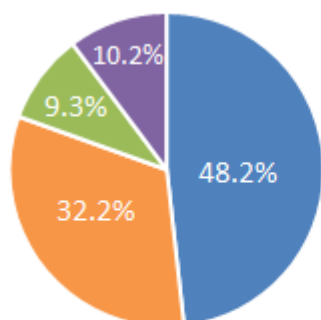


- 株式や投資信託などのリスク資産を売却し現金比率を高めた
- 特に行動しておらず様子見している
- 株式や投資信託などのリスク資産の買い増しを行った

(出所) マネックス証券作成

コロナウイルスの感染拡大に伴い、世界的に株価が下落している中での投資行動について調査しました。「特に行動しておらず様子見している」と回答した投資家の割合が46.0%と最も高くなりました。続いて「株式や投資信託などのリスク資産を買い増した」投資家の割合が37.2%と2番目に高く、「株式や投資信託などのリスク資産を売却し現金比率を高めた」投資家は16.8%にとどまりました。コロナウイルス感染拡大による株価下落を投資の好機と考えた投資家が一定割合いたことがわかりました。

1-2. 株価回復基調はいつまで続くか



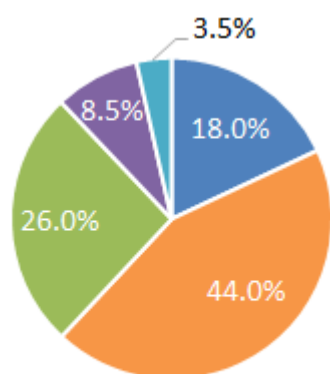
- 6月中など比較的短期間になると思う
- 7-9月まで回復は続くと思う
- 10-12月まで回復は続くと思う
- 2021年以降も回復は続くと思う

(出所) マネックス証券作成

足元の株価上昇の持続期間の予想について尋ねたところ、「6月中など比較的短期間になると思う」との回答が48.2%と半分近くに達しました。続いて多かったのは「7-9月まで回復は続くと思う」で、2つ合わせて8割超に達し、株価の回復基調が比較的短期間で終わると考えている投資家が多いことがわかりました。

1-3. 日経平均の戻り予想レンジ

(サーベイ実施期間中の日経平均高値は2020年5月27日の21,475円から2020年6月1日22,161円という水準でのご回答。)



- 21,000円程度
- 22,000円程度
- 23,000円程度
- 24,000円程度
- それ以上

(出所) マネックス証券作成

日経平均がどの程度まで値を戻すと思うか尋ねたところ、「22,000円程度」との回答が44.0%と最も高くなりました。続いて多かったのが「23,000円程度」と日経平均の反発はある程度限定的になると考えている投資家が多いことがわかりました。

1-4. アフターコロナ下の環境で投資先として注目しているテーマ

今後もコロナウイルスが社会に与える影響は残ると考えられる中で、今後の注目投資テーマを尋ねました。表に示したとおり「テレワーク」への注目が最も多くなりました。続いて「5G」や「ワクチン開発」への注目も多くなりました。

順位	投資先として注目しているテーマ	回答数
1	テレワーク	98
2	5G	84
3	医療・医薬品	54
4	ワクチン開発	43
5	通信	28
6	オンライン会議	20
7	AI	16
8	バイオ	14
8	IT	14
10	観光・旅行	11

(出所) マネックス証券作成

1-5. アフターコロナ下の環境で投資先として注目している銘柄

アフターコロナの環境下で今後注目している銘柄を尋ねました。幅広い銘柄が挙げられましたが、アンジェス(4563)や富士フイルムホールディングス(4901)、武田薬品工業(4502)など医薬品関連銘柄のランクインが目立ちました。また、メドレー(4480)もクラウド診療支援システムを展開しているヘルスケア関連企業です。

順位	投資先として注目している銘柄	回答数
1	アンジェス(4563)	26
2	富士フイルムホールディングス(4901)	19
3	ソフトバンク(9434) ※1	12
4	アマゾン・ドットコム(AMZN) ※2	10
5	武田薬品工業(4502)	9
5	KDDI(9433)	9
7	トヨタ自動車(7203)	8
7	メドレー(4480)	8
7	A N Aホールディングス(9202)	8
7	村田製作所(6981)	8

※1 回答の「ソフトバンク」「ソフトバンクグループ」は分けて集計しています。※2 外国株です。

(出所) マネックス証券作成

定例調査～個人投資家の相場観について～

2. 日本、米国、中国のDIについて

今後3ヶ月程度の各国（日本、米国、中国）の株式市場に対する個人投資家の見通しは、3つのDIとも前回調査（2020年2-3月実施）から上昇しました。中でも日本株DIは前回から41ポイントの大幅上昇となりました。（グラフ2-1）。

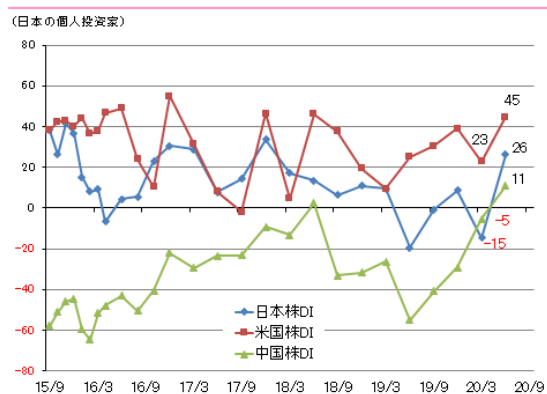
【日本株DI】（2020年3月）-15→（2020年6月）26（前回比+41ポイント）

【米国株DI】（2020年3月）23→（2020年6月）45（前回比+22ポイント）

【中国株DI】（2020年3月）-5→（2020年6月）11（前回比+16ポイント）

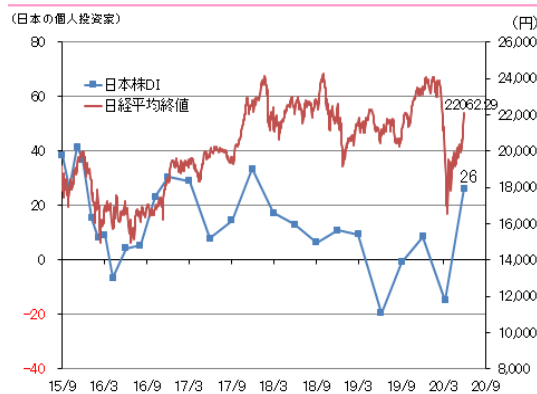
※ DI：DIとは、相場が「上昇すると思う」と回答した割合（%）から「下落すると思う」と回答した割合（%）を引いたポイントです。DIがプラスとは、「上昇すると思う」と回答した割合が高く、DIがマイナスとは、下落すると思うと回答した割合が高いことを示します。

グラフ2-1：今後3ヶ月程度の株値予想



(出所)マネックス証券作成

グラフ2-2：日経平均株価(終値)と日本株DIの推移



(出所)マネックス証券作成

3. 為替市場について

今後3ヶ月程度の米ドル/円相場の見通しについて、「円安になると思う」と回答した個人投資家の割合は前回調査の35%から26%に減少しました。「変わらないと思う」と回答した割合は12%から43%と大きく増加しました。一方で「円高になると思う」と回答した割合は53%から31%に大きく減少しました。（グラフ3）

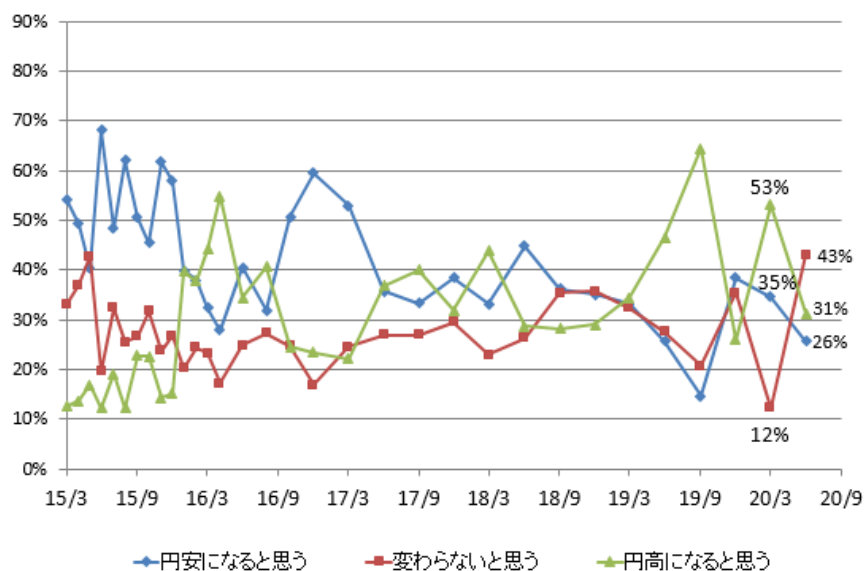
【円安になると思う】（2020年3月）35%→（2020年6月）26%（前回比-9%）

【変わらないと思う】（2020年3月）12%→（2020年6月）43%（前回比+31%）

【円高になると思う】（2020年3月）53%→（2020年6月）31%（前回比-22%）

グラフ3: 今後3ヶ月程度の米ドル/円相場予想

(日本の個人投資家)



(出所) マネックス証券作成

調査結果の詳細は添付の別紙レポートをご参照ください。

(グラフの数値は、小数点以下の計算により合計が必ずしも 100.0% とならない場合があります。)

以上

添付：MONEX 個人投資家サーベイ 2020年6月調査

【手数料等およびリスクについて】

マネックス証券の取扱商品等のお取引をいただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。

また、各商品等には価格の変動等により損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引、取引所 CFD (くりっく株 365) では差し入れた保証金・証拠金 (元本) を上回る損失が生じることがあります。各商品等のお取引にかかる手数料等およびリスクは商品毎に異なります。詳細につきましては、マネックス証券ウェブサイトに掲載の「契約締結前交付書面」「上場有価証券等書面」「目論見書」「目論見書補完書面」「リスク・手数料などの重要事項」等を必ずお読みください。

【マネックス証券株式会社について】

金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第 165 号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

個人投資家の皆様の相場環境等に対する意識調査のため、2020年5月27日から6月1日までインターネットを通じて、マネックス証券に口座をお持ちのお客様向けにアンケートを実施しました。回答いただいた皆様のご協力に感謝いたします。誠にありがとうございました。

今回、定例調査である個人投資家の相場観の調査に加え、新型コロナウイルス影響下の投資行動に関する質問等について特別調査を行いました。

(当社ウェブサイトへの掲載日は、2020年6月12日です)

「MONEX 個人投資家サーベイ」は、個人投資家の相場環境に対する意識調査としてアンケートを行い、その調査結果をまとめたものです。2009年10月に第1回サーベイを行い、2009年11月から2016年3月までは月次で、2016年4月から2016年12月までは隔月、2017年3月以降は四半期毎に調査結果を公表しています。

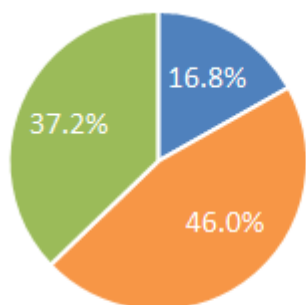
また、グループ会社であるトレードステーション証券（米国）、マネックスBOOM証券（香港）の個人投資家の皆様にも調査を行い、調査結果を「MONEX グローバル個人投資家サーベイ」として公表しております。2011年6月から2016年3月までは四半期毎、2016年6月以降は半年毎、2018年12月以降は、1年毎に調査結果を公表しています。

■調査結果

【特別調査】アフターコロナを踏まえた投資スタンスについて

今月の特別調査として新型コロナウイルス感染拡大による株価下落時の投資行動や今後の株価動向、今後の注目投資テーマなどについて調査しました。

1-1. コロナウイルスの感染拡大による株価下落を受けてとった投資行動

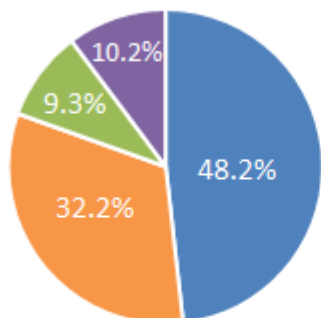


- 株式や投資信託などのリスク資産を売却し現金比率を高めた
- 特に行動しておらず様子見をしている
- 株式や投資信託などのリスク資産の買い増しを行った

(出所) マネックス証券作成

コロナウイルスの感染拡大に伴い、世界的に株価が下落している中での投資行動について調査しました。「特に行動しておらず様子見している」と回答した投資家の割合が46.0%と最も高くなりました。続いて「株式や投資信託などのリスク資産を買い増した」投資家の割合が37.2%と2番目に高く、「株式や投資信託などのリスク資産を売却し現金比率を高めた」投資家は16.8%にとどまりました。コロナウイルス感染拡大による株価下落を投資の好機と考えた投資家が一定割合いたことがわかりました。

1-2. 株価回復基調はいつまで続くか



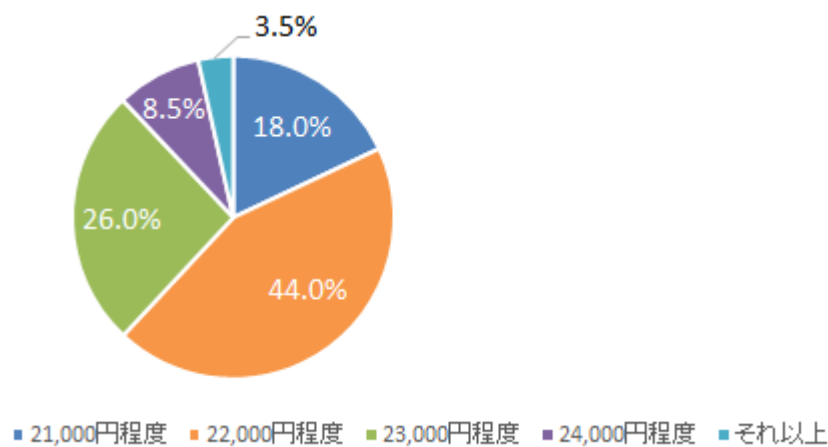
- 6月中など比較的短期間になると思う
- 7-9月まで回復は続くと思う
- 10-12月まで回復は続くと思う
- 2021年以降も回復は続くと思う

(出所) マネックス証券作成

足元の株価上昇の持続期間の予想について尋ねたところ、「6月中など比較的短期間になると思う」との回答が48.2%と半分近くに達しました。続いて多かったのは「7-9月まで回復は続くと思う」で、2つ合わせて8割超に達し、株価の回復基調が比較的短期間で終わると考えている投資家が多いことがわかりました。

1-3. 日経平均の戻り予想レンジ

(サーベイ実施期間中の日経平均高値は2020年5月27日の21,475円から2020年6月1日22,161円という水準の中でのご回答。)



(出所)マネックス証券作成

日経平均がどの程度まで値を戻すと思うか尋ねたところ、「22,000円程度」との回答が44.0%と最も高くなりました。続いて多かったのが「23,000円程度」と日経平均の反発はある程度限定的になると考えている投資家が多いことがわかりました。

1-4. アフターコロナの環境下で投資先として注目しているテーマ

今後もコロナウイルスが社会に与える影響は残ると考えられる中で、今後の注目投資テーマを尋ねました。表に示したとおり「テレワーク」への注目が最も多くなりました。続いて「5G」や「医療・医薬品」、「ワクチン開発」への注目も多くなりました。

順位	投資先として注目しているテーマ	回答数
1	テレワーク	98
2	5G	84
3	医療・医薬品	54
4	ワクチン開発	43
5	通信	28
6	オンライン会議	20
7	AI	16
8	バイオ	14
8	IT	14
10	観光・旅行	11

(出所) マネックス証券作成

1-5. アフターコロナの環境下で投資先として注目している銘柄

アフターコロナの環境下で今後注目している銘柄を尋ねました。幅広い銘柄が挙げられましたが、アンジェス（4563）や富士フイルムホールディングス（4901）、武田薬品工業（4502）など医薬品関連銘柄のランクインが目立ちました。また、メドレー（4480）もクラウド診療支援システムを展開しているヘルスケア関連企業です。

順位	投資先として注目している銘柄	回答数
1	アンジェス（4563）	26
2	富士フイルムホールディングス（4901）	19
3	ソフトバンク（9434）※1	12
4	アマゾン・ドットコム（AMZN）※2	10
5	武田薬品工業（4502）	9
5	KDDI（9433）	9
7	トヨタ自動車(7203)	8
7	メドレー(4480)	8
7	A N Aホールディングス(9202)	8
7	村田製作所(6981)	8

※1 回答の「ソフトバンク」「ソフトバンクグループ」は分けて集計しています。

※2 外国株です。

(出所) マネックス証券作成

定例調査～個人投資家の相場観について～

2. 日本、米国、中国のDIについて

今後 3 ヶ月程度の各国（日本、米国、中国）の株式市場に対する個人投資家の見通しは、3 つの DI とも前回調査（2020 年 2-3 月実施）から上昇しました。中でも日本株 DI は前回から 41 ポイントの大幅上昇となりました。（グラフ 2-1）。

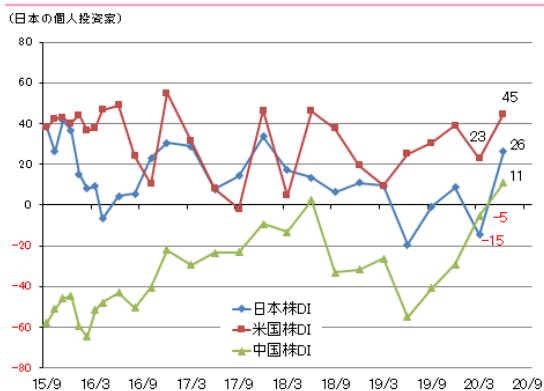
【日本株 DI】（2020 年 3 月） -15→（2020 年 6 月） 26（前回比+41 ポイント）

【米国株 DI】（2020 年 3 月） 23→（2020 年 6 月） 45（前回比+22 ポイント）

【中国株 DI】（2020 年 3 月） -5→（2020 年 6 月） 11（前回比+16 ポイント）

※ DI：DI とは、相場が「上昇すると思う」と回答した割合（%）から「下落すると思う」と回答した割合（%）を引いたポイントです。DI がプラスとは、「上昇すると思う」と回答した割合が高く、DI がマイナスとは、下落すると思うと回答した割合が高いことを示します。

グラフ2-1: 今後3ヶ月程度の株価予想



(出所)マネックス証券作成

グラフ2-2: 日経平均株価(終値)と日本株DIの推移



(出所)マネックス証券作成

3. 為替市場について

今後3ヶ月程度の米ドル/円相場の見通しについて、「円安になると思う」と回答した個人投資家の割合は前回調査の35%から26%に減少しました。「変わらないと思う」と回答した割合は12%から43%と大きく増加しました。一方で「円高になると思う」と回答した割合は53%から31%に大きく減少しました。(グラフ3)

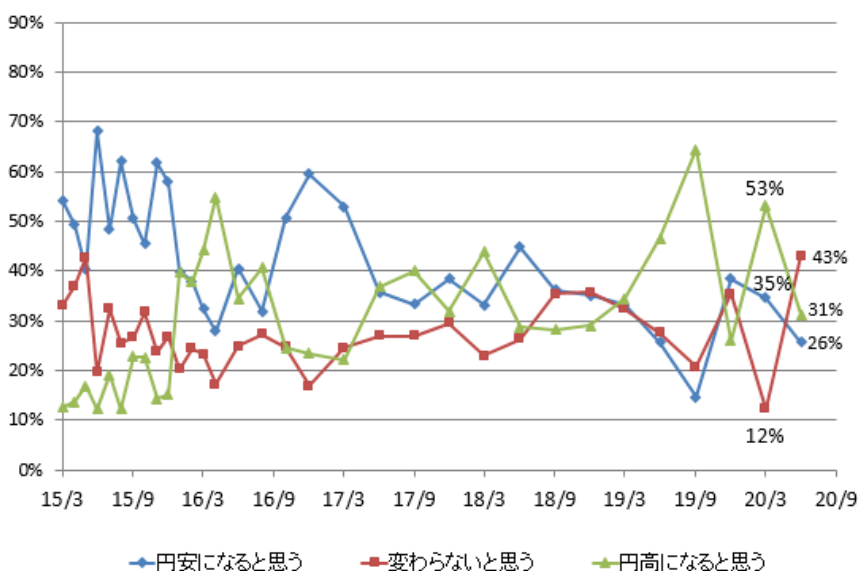
【円安になると思う】(2020年3月) 35% → (2020年6月) 26% (前回比-9%)

【変わらないと思う】(2020年3月) 12% → (2020年6月) 43% (前回比+31%)

【円高になると思う】(2020年3月) 53% → (2020年6月) 31% (前回比-22%)

グラフ3: 今後3ヶ月程度の米ドル/円相場予想

(日本の個人投資家)



(出所) マネックス証券作成

■総括（マネックス証券 マーケット・アナリスト 益嶋裕）

3月中旬に一時は16,000円台まで下落した日経平均ですが、6月10日の終値は23,124円と株価は大きく値を戻しました。日本を含めた先進各国で新型コロナウイルスの感染拡大がピークアウトし、徐々に経済が正常化に向かっていることが株価反発につながっているとみられます。

しかし、新型コロナウイルスの感染収束後も今回の問題が社会に与えた影響は一定程度、残っていくと考えられます。マネックス証券でもテレワーク（在宅勤務）が行われるようになり、ミーティングはオンラインで行うことが当然になりました。こういった変化はたとえコロナウイルスの問題がなくても徐々に拡大していったでしょうが、社会の変化が加速したということなのかもしれません。

こうしたなかで個人投資家の皆様に「アフターコロナ」の注目投資テーマや注目投資銘柄を尋ねました。やはりテレワークやワクチン開発、オンライン会議といった社会の変化に関連したテーマに注目されている方が多いことがわかりました。

投資の観点ではこれらのテーマに関連した銘柄が一時の人気だけではなく、本当に業績が良くなっていくかどうかに着目して銘柄を選定していくことが大切だと考えられます。今後もこういった銘柄選定の観点でもお客様のお役に立てるよう情報発信に努めてまいります。

今月も皆様のおかげで大変有意義な調査を行うことができました。ご協力本当にありがとうございました。

2020年6月11日執筆

■調査の概要と回答者の属性

調査方式： インターネット調査
 調査対象： マネックス証券に口座を保有している個人投資家
 回答数： 1,194
 調査期間： 2020年5月27日～6月1日

【性別】

男性	女性	回答しない
82.7%	15.3%	2.0%

【年齢】

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	回答しない
0.3%	1.9%	10.5%	26.0%	28.5%	19.3%	11.4%	2.3%

【金融資産】

500万円未満	500万円～1000万円	1000万円～2000万円	2000万円～5000万円	5000万円～1億円	1億円以上
24.5%	18.7%	19.6%	22.7%	9.3%	5.3%

【売買頻度】

デイトレ	週に数回	月に数回	数ヶ月に1回	それより少ない
4.7%	17.2%	30.4%	28.6%	19.1%

【株式投資のご経験】

1年未満	1年～5年	5年～10年	10年以上
5.3%	25.7%	18.9%	50.1%

本情報は当社が実施したアンケートに基づいて作成したものです。

- ・ 本情報は売買のタイミング等を反映したものではなく、また示唆するものではありません。
- ・ 当社は記載した銘柄の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・ 当社は本情報の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・ 銘柄選択や売買タイミングなどの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・ グラフの数値は、小数点以下の計算により合計が必ずしも100.0%とならない場合があります。

マネックス証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会